會 津 人 蔘

高 橋 源 三

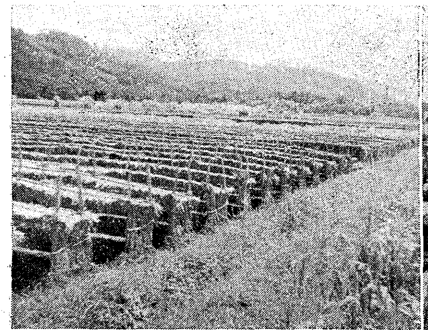
Genzō TAKAHASHI: Über *Panax Ginseng* C. A. MEY. aus Prov. Iwasiro, Aizu.

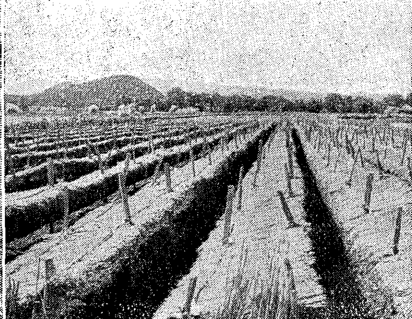
人蔘ニ就テハ「日本藥園ノ研究」ヤ「人蔘史」其他ノ群書ニ極メテ詳細ナルモ、筆者ハ昭和 17 年 7 月及ビ 9 月ニ山形縣藏王山ヘ出張ノ折會津磐梯山々麓若松ニ立寄リ人蔘栽培ノ狀況ヲ見學スルノ機會ヲ得タノデ少シバカリ記載シテミヨウト思フ。本出張ニハ東大山岸晃助教授ノ御同行ヲ得タ茲ニ深謝ノ意ヲ表スル。

會津人蔘ノ栽培ノ起原ハ、享保年間藩主松平正容公ガ市ノ東方徒之町ニ面積 1 町 4 反 6 畝歩餘ノ御藥園ヲ開キ、朝鮮人蔘ノ種子ヲ幕府ヨリ拜領シ之ヲ試植シタノガ始メデアル。シカシコレハ成功ヲミナカツタ。茲ニ御種人蔘ノ供給ヨロシカラズ附近山中ニ多ク野生スル竹節人蔘ヲ採取修製シ、會津人蔘ナル呼稱ノモトニ邦內各地ニ供給サレタ。又此ノ竹節人蔘ノ本根ト鬚根トヲ共ニ干シ製シ、カモジ人蔘ト稱シ世上ニ出現シタ。寬政年間松平容頌公ノ代ニ國老田中玄寧ノ意ニヨリ種子ヲ出雲ニ得、本草家佐藤成裕ヲ招キ栽培ニ當ラシメ漸時盛トナル。又一說ニ藩公ハ日光ニ隱密ヲハナチ其種子ヲ得タト云フ。斯クシテ栽培盛トナルヤ藥園ノ他諏訪原ニ特定百姓ニ栽培セシメタ結果、會津人蔘ノ國內供給ノ他支那方面ヘモ輸出セラレルニ至リ、藩庫ハ裕トナツタ。明治維新官軍ニヨク抗シ得タノモ畢竟人蔘ノ利益ニヨリ軍費ヲ支ヘ得タニ由ルト謂フ。

現在此ノ地ノ人蔘栽培ハ出雲ト共ニ本邦ニ於ケル主位ヲ占メテ居ル。其主ナル栽培地ハ川沼郡八幡村坂本、大沼郡新鶴村佐賀瀨川、北會津郡門田村一ノ堰、大沼郡長井野、若松市飯盛山ノ諸地方デアル。尙坂本ノ猪俣才四郞、佐賀瀨川ノ鈴木造吉、一ノ堰ノ大竹新藏ノ諸氏ガヨイ人蔘ノ栽培者デアル。飯盛山附近ニ於テハ以前盛デアツタガ今ハ極メテ僅デアリ又品質モヨクナイ。

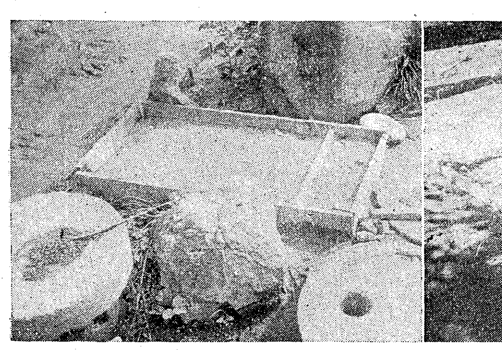
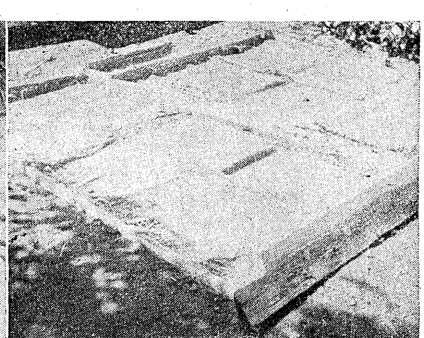
栽培法ハ、田圃地ヲ使用シテ居ル、此ノ田地栽培ノ理由ハ、人蔘ハ著シク連作ヲ忌ミ、連作ヲスルトキハ 1, 2 年ニシテ發育不良ヲ起シタリ病害ヲ被ツタリスル。然シテ一度栽培シタ地ハ少クトモ 20 年ヲ經タ後デナケレバ作付ハ出來ナイ、從ツテ耕地ニハ必ズ處女地ヲ選バナケレバナラヌコトニナル。享


Fig. 1. 田圃中ニ散見スル蔘圃遠望


Fig. 2. 蔘圃近望

保年間ヨリ盛ニ栽培サレタ此ノ地ニハ最早畑地デ使用出來ル所ガナクナツタ譯デ次第ニ田圃ヲ利用スルニ至ツタ。尙稻作ヨリモ利益大ナルニモ由ル。先ヅ前作トシテ 2 年前ニ豆類又ハ里芋ヲ作リ之ニ多量ノ肥料ヲ與ヘル、次年ノ播種 1 年前ハ休園シ耕耘施肥ヲ行フ。整地後 2 尺ノ通路ニ高サ約 1 尺, 幅 2-2.5 尺ノ床ヲ作リ、之ニ直播法ヲシテイル。

種子ハ夏季 3-4 年生ノモノヨリ採取シ、果肉ヲ去リ一度陰乾スル。此ノ種子ノ價ハ果肉付ノモノハ 1 升約 10 圓, 果肉ヲ去ツタ精選種子ハ一升約 30 圓ト云フ極メテ高價ナモノデアル、從ツテ種子ニヨル利益ハ極メテ大キナモノデアル。甲析ハ宅地内ノ陰地ニ深サ 8 寸、長サ幅共ニ 3 尺餘ノ適宜ノ穴ヲ掘リ、之ニ同形ノ板枠ヲ嵌入シ、此ノ中ニ土砂ト種子ヲ混ゼテ入レルカ、又ハ土砂ト種子ヲ交互ニ層狀トナシテ入レ、其上ハ莚ニテ覆ヒ適度ノ濕氣ヲ保タセル、10 月頃ニ子殼ノ裂開ヲ見ル。裂開シタ種子ハ撰別シ、10-11 月ノ農閑期ニ直チニ播種スル。甲析ノ促進法トシテハ莚ノ上カラ 25-30 度ノ湯ヲ二三



Fig. 3. 甲　析　狀　況

度カケル。春播法ヲ行フニハ種子ヲ厚紙袋ニ入レ穴藏中ニ貯ヘルカ又ハ籾殼中ニ貯ヘル。然シ極メテ鼠害ヲ蒙リ易ク且ツ春ハ農繁期デアル爲此ノ法ハ餘リ行ハレナイ。

播種法ハ定板定規ニヨルカ又ハ撒播法ヲ行ツテ居ル。種子ハ一反步ニ對シ約 3 升ヲ要スル。

日覆ハ北向ノミヲ開キ他ノ全部ヲ藁ニテ葺キ遮陽スル。日覆屋根ハ前後 3 尺餘デ後方ニ多少傾斜セシメル。

灌水ハ田圃中デアルカラ蔘圃周邊ノ水溝ヲ利用スル。

以上ノ如キ田圃栽培モ現時下米增產ノ見地カラ新タニ稻作田圃ヲ蔘圃トスルコトヲ禁ゼラレタ、從ツテ此ノ地ノ人蔘栽培モ次第ニ衰微スルノデハナカロウカ。

採根ハ 8 月 20 日頃カラ 9 月 15 日頃マデニ行ナハレル。ソシテ必ズ降雨後ニサレル、コレハ目方ヲ幾分デモ增サセル爲ト製品ヲ奇麗ニスル爲デアル。根掘用具ハ三本鍬ヲ用ヒル。

此ノ地方デハ間引ハ全々セズ、4 年目ニ全部ヲ掘取ル。5 年以上ノ栽培ハ行ナハレナイ、コレハ地味ノ關係カラ許サレナイト云フ。從ツテ會津人蔘ハ皆 4 年生根デアル。


Fig. 4. 四年生人蔘圃

土根ハ一反カラ 80–140 貫得ラレ、一貫目 30 圓デアル。土根中ニ赤ト稱スルモノガアル、コレハ何カノ關係デ根ノ表面ガ赤褐色ヲ呈スルモノデ最惡品デアリ人蔘買ヒハ無料デ持ツテ行クソウデアル。土根ノ根頭ニアル數 cm ノ殘莖ノ白色ノ部分ヲ採リ陰干トシタモノヲ白身ト稱シ煎劑又ハ浴湯料トスル。

會津ニ於ケル人蔘製造家ハ約 30 人デ、若松市內ニハ榮町四丁目金鳳社ノ佐藤留八氏ト材木町ノ高橋庄貞氏、門田村ニハ高橋庄作氏ガ製造シテ居ル。之等ノ製造家ハ夫々年 3–4000 貫ヲ製造スル。製造ハ 8 月 20 日頃カラ約 30 日間デ其後ハ選別ヲスル。栽培業者カラ一田圃何程ト云フ見切買又ハ貫目買ニテ仕入レル。

會津人蔘ハ掘出サレタ土根ノ大小、品質、形狀等デ選別サレ夫々製造サレル。種々ノ蔘銘ガツケラレテ居ル。

紅蔘ハ形狀肥大ナルモノヲ用フ。水洗後蒸シ、熱乾シ製ス。此ノ地デハ紅蔘ガ最モ多ク製造サレル、ソレハ整形ノ手數モナク且ツ全根デアル故目方取引ニハ極メテ利益大ナルニ由ル。形ニハ餘リ重キヲ置カナイ。支那方面ニ多量ニ輸出サレル。神戸ノ長岡佐助氏ガ最大ノ貿易商デアル。又朝鮮、臺灣方面ニモ出ル。一荷 6 斤トシテ出ス。紅蔘ニハ次ノ 5 種ノ等級ガアル。ソシテ 1 斤ノ片數 30 本未滿ニ就キ夫々ノ製造所渡販賣價格ハ 1 等 (天) 70 圓、2 等 (地) 56 圓、3 等 (人) 49 圓、4 等 (月) 35 圓、等外 (花) 28 圓デアル。

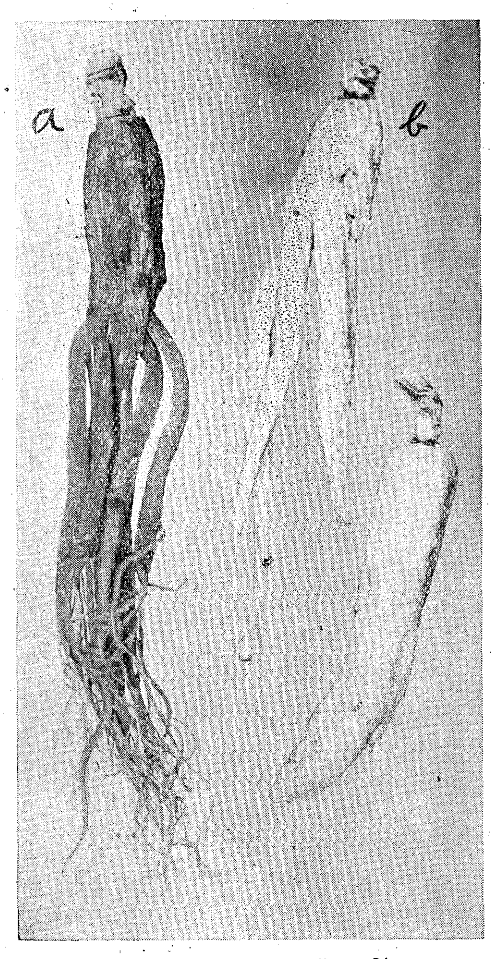


Fig. 5. a; 紅蔘, b; 白蔘 ×⅔.

白蔘ハ形ノヨイモノヲ選出シ、小刀デ適當ニ分岐根ヲ切リ除キ竹篦デ剝皮シタ後絲デ吊シテ陽乾スル。剝皮ハ一本ニツキ 4 厘ニテ村ノ婦女子ガ副業トシテ行ツテ居ル。白蔘ハ手間ガカヽリ且ツ目方ヲ減ズルノデ餘リ製造サレナイ。主トシテ朝鮮向ノモノデアル。白蔘ニハ 4 等級アリ、ソシテ 80 片未滿ノモノノ同上價格ハ 1 等 (天) 31 圓、2 等 (地) 28 圓、3 等 (人) 25 圓、等外 (花) 22 圓デアル。

曲蔘ハ此ノ地デハ殆ド製造サレテ居ナイ、此レハ白蔘同様 4 等級アリ同上ノ片數ニ就キ、(天) 35 圓、(地) 31 圓、(人) 28 圓、(花) 25 圓デアル。

横玉又ハ横筋、横皺、横筋玉ト稱セラレルモノハ、型ノ悪ルイモノヽ胴部ノミカラ成リ、表面全體ニ環狀横紋 (副根ノ瘢痕) ヲ有シ、汚褐色ヲ呈シテ居ル。コレハ餘リヨク水洗セズ、單ニ陽乾シ製造サレタ爲デアル。横筋ハ後記ノ生

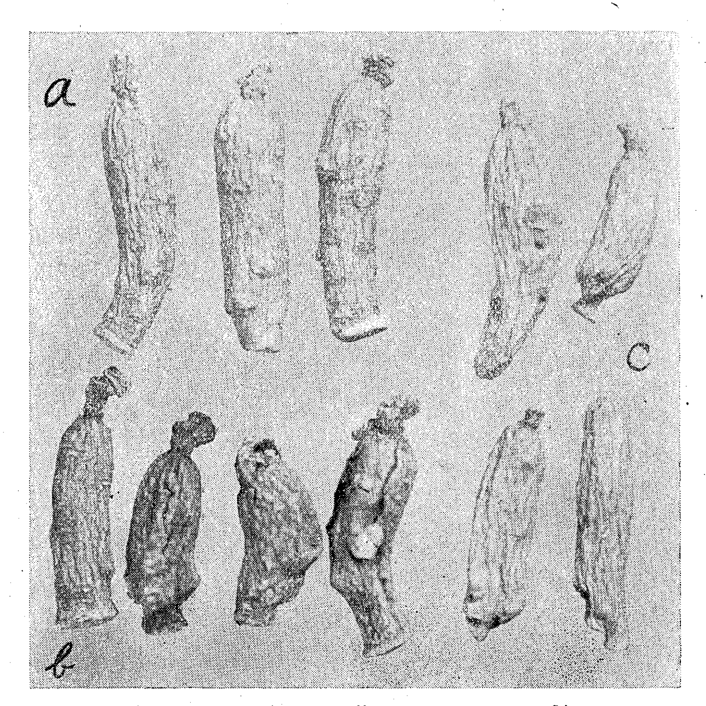


Fig. 6. a; 生干, b; 横玉, c; 雲州玉 ×⅔.

干ト同様製法ガ極メテ簡單デアルノデ多量ニ造ラレル。主トシテ臺灣支那向ノモノデアル。1 斤ニツキ 32-40 圓デアル。

横筋長ハ横玉ヨリ長形ノモノデアル、横玉ヨリ幾分安價デアル。

會津製蔘又ハ舊製蔘 (Fig. 9; b) トハ、會津ニ於テ古クカラ行ナハレテ居タ製法ニヨツテ調製サレタモノデアル。數年前マデハ皆コノ法ニヨツテ製造シテ居タト云フ。其製法ハ粗惡ナ土根ヲ用フ、水洗ノ後簡單ニ剝皮シ、熱湯中ヲ通シ次デ陽乾スル。從ツテ表面黃白色ヲ呈シ、徐々ニ乾燥シタ爲餘リ縱皺ヲ見ナイ、質ハ下記ノ雲州製蔘ヨリ軟カイ。一般ニ細長イ本根ノミカラ成ツテ居ル。1 斤ニツキ 18-25 圓程度デアル。

雲州製蔘トハ、其製法全ク舊製ニ類似スルガ仕上ゲニ際シ熱室中デ急速ニ乾燥シ、其形ヲ整ヘタモノ。從ツテ表面ニ大キナ縱皺ヲ認メ、質ハ極メテ堅イ。此ノ製法ニ依ル人蔘ノ銘柄ハ實ニ多ク上品ヨリ擧ゲレバ旭記・宙記・鳳記・義記・智記・順記・春記・中夏記・日記・秋記・冬記・商記・大武記・小武記・宇記・天記・仁記・禮記・信記・花記・夏記・大日記・月記・雪記・功記・玉記・中武記等ガア

ル、其一品玉記又ハ雲州玉ト稱セラレルモノハ胴部ト根頭カラ成ルモノデアル。

生干トハ、ヨク水洗シタモノノ胴部ト根頭ヲ用ヒ、剝皮セズ單ニ陽燥シタモノデアル。表面帶褐黃白色デアル。横筋ヤ雲州玉ニ似テ居ル。1斤ニツキ 28-33 圓デアル。

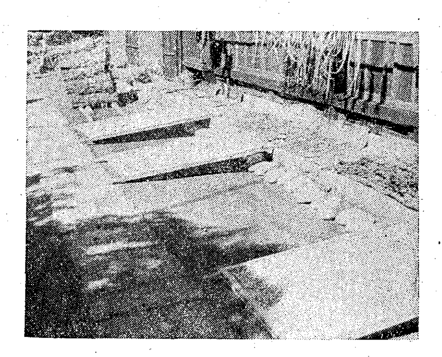


Fig. 7. 生干ノ陽乾狀況

生干肉ト稱スルモノハ、白蔘其他ノモノノ整形ニ際シ切除シタ細長ノ根ヲ用フ。單ニ陽乾シ製シタモノデアル。表面帶黃白色デ、質ハ軟イ。1斤ニツキ 16-19 圓デ安價デアル。

紅肉ト稱スルモノハ、細長イ胴部ノミカラ成リ、其製造法ハ紅蔘ト全ク同樣デアル。1斤ニツキ 30 圓程度デアル。

鬚人蔘又ハ白毛ハ下等品デ東京・大阪方面ノ藥局ヤ製藥會社等ニ出ル。人蔘

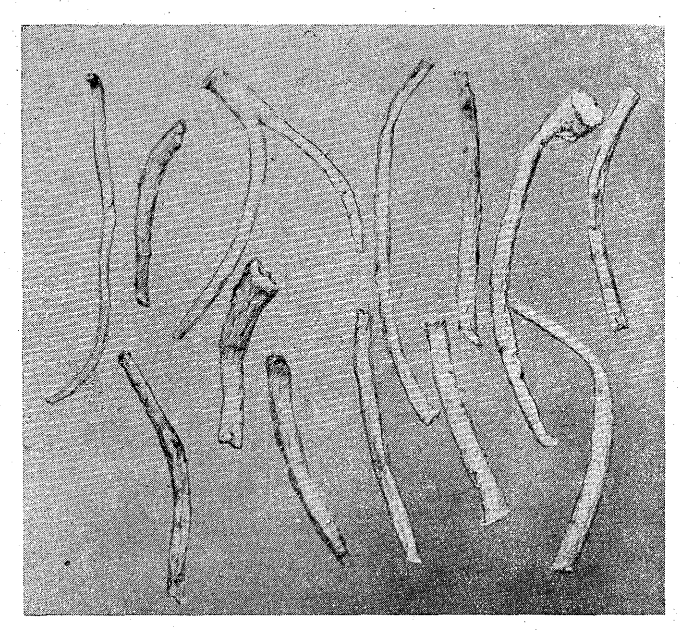
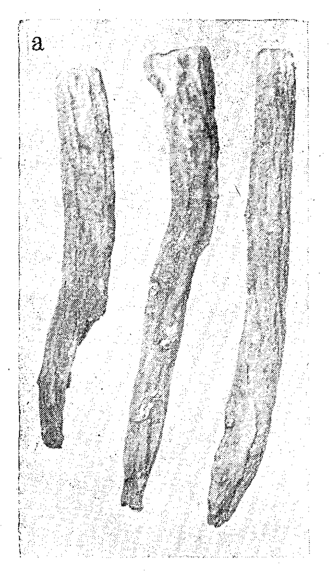


Fig. 8. 生干肉 ×⅔.



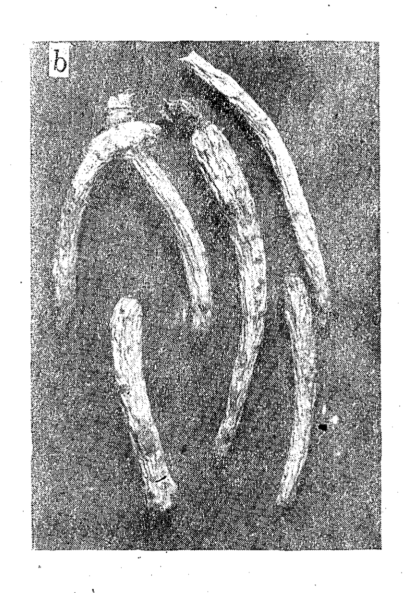


Fig. 9.　a; 紅肉, b; 會津製蔘　× ⅔.

錠ヤ人蔘含有葡萄酒等ヲ造ル爲ニ 4, 5 年前ハ 1 斤 2 圓餘ニテ多量ニ出タガ現在 10 圓以上ニ高價トナツタ結果餘リ出ナイト云フ。

紅毛ハ紅蔘調整ニ際シ得ラレル鬚根デアツテ、1 斤 15 圓デアル。

終リニ臨ミ貴重ナル標本ヲ惠與シテ下サツタ高橋庄作、高橋庄松、大竹新藏、佐藤留八ノ諸氏ニ深謝スル。

（東京藥學專門學校生藥學教室）